

Q7. 女子の大学卒業生就職率

	合計	一回目調査						合計	二回目調査					
		現状よりかなり増える	現状よりやや増える	現状とほぼ変わらない	現状よりやや減る	現状よりかなり減る	無回答		現状より大幅に増える	現状よりかなり増える	現状よりやや増える	現状とほぼ変わらない	現状より減る	無回答
合計	104	10	47	27	14	1	5	200	9	75	75	28	9	4
	100.0	9.6	45.2	26.0	13.5	1.0	4.8	100.0	4.5	37.5	37.5	14.0	4.5	2.0
性別														
男	96	10	43	24	13	1	5	184	8	67	70	27	9	3
	100.0	10.4	44.8	25.0	13.5	1.0	5.2	100.0	4.3	36.4	38.0	14.7	4.9	1.6
女	8	-	4	3	1	-	-	16	1	8	5	1	-	1
	100.0	-	50.0	37.5	12.5	-	-	100.0	6.3	50.0	31.3	6.3	-	6.3
年齢														
20才代	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	50.0	50.0	-	-	-
30才代	6	-	1	5	-	-	-	11	-	4	4	2	1	-
	100.0	-	16.7	83.3	-	-	-	100.0	-	36.4	36.4	18.2	9.1	-
40才代	17	2	8	2	1	1	1	43	3	14	13	10	3	-
	100.0	11.8	47.1	17.6	11.8	5.9	5.9	100.0	7.0	32.6	30.2	23.3	7.0	-
50才代	14	1	10	2	1	-	-	37	3	16	14	3	1	-
	100.0	7.1	71.4	14.3	7.1	-	-	100.0	8.1	43.2	37.8	8.1	2.7	-
60才代	40	3	19	9	6	3	3	66	2	23	26	8	4	3
	100.0	7.5	47.5	22.5	15.0	-	7.5	100.0	3.0	34.8	39.4	12.1	6.1	4.5
70才代	23	2	8	8	4	1	1	37	-	17	14	5	-	1
	100.0	8.7	34.8	34.8	17.4	-	4.3	100.0	-	45.9	37.8	13.5	-	2.7
80才代	2	1	-	-	1	-	-	1	-	-	1	-	-	-
	100.0	50.0	-	-	50.0	-	-	100.0	-	-	100.0	-	-	-
90才代	1	1	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-
	100.0	100.0	-	-	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-	-	-

Q7. 2010年における「女子の大学卒業生就職率」どれくらいの水準か?



第1回調査結果 現状よりやや増える【45.2%】現状とほぼ変わらない【26.0%】
現状よりやや減る【13.5%】現状よりかなり増える【9.6%】

「現状よりかなり増える」「現状よりやや増える」がそれぞれ37.5%となっており、第1回調査の傾向から予測の度合いが強くなっているのが特徴となっている。「減る」と予測した人は5%未満となっている。

<自由回答まとめ(1回目調査)>

Q7. 2010年における女子大学卒業生の就職率予測

Q7-A. 予測の理由・根拠

〔現状より増えると思う理由〕

- ・企業が大卒を希望するため。
- ・女性の社会進出の風潮が一層増大するため。
- ・男女の雇用機会の構造的不均衡が変化する。
- ・男子より女子の方が優秀であることに企業が気付くため。
- ・女性の職業志向が強化されるため。
- ・労働力が不足するため。
- ・景気が回復するため。

〔現状と変わらないと思う理由〕

- ・社会が必要とする大学労働力の増加が期待できないため。
- ・依然として、女子卒業生への差別意識が強いため。
- ・進学率は上昇するものの、就職志向がそれに対応していないため。
- ・男女平等化とともに、企業の省力化も進むため。

〔現状より減ると思う理由〕

- ・女子の適応能力が低いため。
- ・大学院への進学が増えるため。
- ・雇用が減るため。
- ・フリーの就職先を好む傾向が強まるため。

Q7-B. その結果、何が最も変わるか

〔現状より増えた場合〕

- ・大学院進学希望者の増加。
- ・男性社会のひずみの改革、および女子の男子化。
- ・男性の管理職占有率の低下。
- ・相補性の原理が機能すれば、男性のみの職場より効率は上昇する。
- ・女性の専門職への進出。
- ・職業構造の変化。
- ・家庭生活維持のためのサービス業の進展。
- ・男性の転職傾向の増加。
- ・共働き家庭の増加。
- ・晩婚化の更なる進展。未婚女子の増大。

〔現状より減った場合〕

- ・技術、特技を持った女子学生が増える。
- ・親への依存傾向が高まる。